



水道管も冬支度！

水道管の凍結・破裂を防ごう！！



こんなときは要注意！

- 気温がマイナス4℃以下になるとき
- 氷点下の真冬が続くとき
- 留守にして数日間水道を使わないとき

凍結に注意が必要な箇所の例

- 管がむき出しで立ち上っている散水栓や手洗い栓
- 建物の外壁にそってむき出しになっている管
- 屋外の給湯器の管
- 室外洗濯機用の水栓

凍結を防ぐために

- 水道管が直接外気に触れる部分に保温材や布などを巻きつけ、保温材が濡れないようにビニール袋などで防水しましょう。
※保温材が濡れると凍りやすくなります。
- メーターボックスの中に使い古しの毛布や布切れなどを入れ詰めて保温しましょう。



水道メーターボックス



布で保温している様子

- 蛇口から少量の水(2~3mm程度)を流しておくことで凍結しにくくなります。

※出し過ぎには注意

(出した水を容器などで受け、浴用などに利用するなど水を有効に利用しましょう)



寒さで水道管内の水が氷になると、断水が発生するだけでなく、体積が膨張するため水道管に亀裂が入り、そこから漏水することがあります。

こうした事故を防止するため、天気予報に注意し、凍結対策を行うことが大切です。

水道管が凍結してしまったら

自然に溶けるのを待つか、凍った所にタオルなどを被せて、その上からぬるま湯をゆっくりとかけて溶かしましょう。

※いきなり熱湯をかけると水道管や蛇口が破裂してしまう恐れがあります。



水道管が破損して漏水が発生したときは

まずは、メーターボックス内のバルブを閉めて水を止めてください。

(その間、水が使用できなくなります)

その後、市指定給水工事業者に修理を依頼してください。水道メーターから蛇口までは個人の所有物であるため、**修理費用は個人負担**となります。

漏水しているか調べる方法

蛇口を全て閉め、水を出していない状態でパイロットが回っている場合は漏水している可能性があります。

